

【神さまがしかけた贈り物】

きっかけは、由紀さんでした。由紀さんと出会わなければパソコンの必要性、可能性に気づく事ができませんでした。ましてや「障害者就業支援」こんな大きな夢を抱くこともありませんでした。それだけ、今までの人生観をひっくりかえすようなハリケーンのような出会いでした。

川崎市在住の岩谷由紀子さんは、私のパソコンボランティアのサポート仲間です。パソコンボランティアとは全盲の方、耳の聞こえない方や車椅子の方など身体に障害のある方にパソコンをお教えしたり、パソコンを通して社会参加を応援するお助け部隊です。サポート依頼が入ると由紀さんと一緒に自宅にうかがいアドバイスをします。由紀さんは自力でパソコンを習得して、ワード、エクセルはもちろん、フォトショップ、自分のホームページを作成したりパソコンを自由に使いこなすベテランです。由紀さんが普通のひとと、ちょっと違うことは、脳性まひの影響で体が不自由です。パソコンは手でマウス操作をします。そして、喋ることができません。そんな由紀さんの通訳代わりに私は同行します。彼女とは普段は文字表で会話をします。不自由な指で文字表を指差し濁音は同じ言葉を2度指差します。でももう慣れているため文字表など使わなくても言いたいことは表情でわかります。いつもメールでも会話をしていますから、何も不自由はありません。

そして、もう一人、1年以上サポートをしてくる頑張り屋の本間かおりさん。彼女は突然29歳で障害を背負うことになり不自由になった右手にかわって左手だけでマウス操作をします。また、他の頑張っている障害のある方と会うたびに「趣味だけのパソコンで終わらずに、パソコンを通じて社会に参加して、障害も関係なく仕事ができるはず」とずっと思い続けていました。仕事を持つことによって、金銭的な面だけではなく、生きがいと自信に繋がります。

でも現実には、難しい問題がたくさんあり、就業の機会はなかなか実現しませんでした。でも諦めきれずにいました。「いつかは、絶対に・・・」と念じ続けていました。

ところが！ある日、幸福な女神さまがにっこりと微笑みかけたのです。起業家ネットワークのメーリングリストで「前からの夢である障害者就業支援活動をしたいと思います。どなたか協力していただけますか！」という一通のメールが目にとまりました。メールを読み、5秒後には「私の夢と一緒に！協力させてください！」メールを送信しました。そのメールがきっかけで、(有)アंकオルの伊藤敏子さんに出会う事ができました。すぐに由紀さんとかおりちゃんのことを相談にのっていただきました。早速に面接という段取りになり、まるで親子面接のようにどきどきしながら付き添いました。パソコンで入力した履歴書。そこには書ききれないたくさんの、苦勞を背負ってきた彼女たちの人生。やっと夢が叶った瞬間です。

その感動から1年、研修期間を無事終了して、自宅でのSOHOという形態で実務についています。勿論お給料もいただいています。仕事内容はデザイン系とWeb関連を任されています。仕事ぶりも真面目で迅速、自慢の優秀な社員です。研修を積み重ねた成果が着実にあらわれスキルも1年間で見違えるようにアップしました。なによりも違ってきたのが表情です。自信に満ちて以前にもまして明るくなりました。それは、彼女達だけではなくありません。今では、障害者就業支援のメンバーが14名にも増えました。障害内容もべつべつ、それぞれが違った人生を過ごした14名の人生が、同じ仕事という目標のもとやっと出会えたのです。出会えた14名のおひとりづつの個性を大切に、きめ細やかなフォローをしたいと願い1件づつ家庭訪問をします。自宅にうかがって、パソコンの福祉器具相談、スキルアップのアドバイスそして、一番大切なのはお話を聞くことです。普段は自宅で一人での作業が多いた

め、不安な気持ちもあるかと思いますが。それを少しでも取り除いて研修と仕事に専念していただきたいと思います。最近、国の政策として障害者就業支援があげられています、大規模でなく本当に小さな支援ですが、小回りのきく温かい個人に合わせたフォローをしたい願っていました。それが着実に実現しています。

メールで全てこと足りるこの時代に逆行するようですが、人と人とは会わないとだめです。そんな思いが通じたのでしょう。横の人とのつながりを持ちたいという強い希望があり、14名全員で打ち合わせ兼、ランチミーティングを開催できました。14名の笑顔がやっと揃いました。普段は仕事の連絡は全てメールですから、全員で顔合わせは初めてでした。

そんな期待と不安を抱きながらも、着馴れないスーツで緊張を隠せない男性たち、そして笑顔の表情がまだ固い女性たち、ぞくぞくと待ち合わせの30分前に到着しました。右方麻痺の方、車椅子の方、聴覚障害の方、言語困難の方・・・おそらくこれだけバラバラな障害がありながら、こうやって一つに集まることは、初めてのことだと思います。

一言では語り尽くせない人生を過ごされた14名の仲間、やっと会えた喜びに幸せを感じました。みんなの共通な話題は仕事。嬉しそうな笑顔でみんなはつらつとしています。思い思いに名刺交換をしたりあちらこちらで笑い声のする楽しい時間でした。

その中でも一際目立つ男性がいました。五十嵐慎之さんでした。彼は生まれつき体が不自由です。持ち前の根性と明るさと根性で自力で大学にも合格しました。また英語も独学で勉強をして子ども達に英語を教えています。現在はインターネットの検索と原稿作成をしていただいています。そんな彼が当日のことをコラムにして送っていただきました。

【 ミーティングに参加して 】

「ミーティングのお知らせをいただいて以来、皆さんにお会いするのを首を長くして待っていました。普段は孤独な環境で仕事や研修をしているので、皆さんと交流できるのが楽しみでした。

ミーティング会場に入り、初対面の方々を前にして、ガラにもなく少し緊張していましたが、メルマガで目にした名前や、一緒に仕事をさせていただいた方々の名前があちらこちらから聞こえてきて、私の緊張もすぐにほぐれました。皆さん気さくな方々で、楽しくお話することができました。

障害の種類や程度は一人ひとり異なりますが、皆さん努力家で、向上心のある方ばかりでした。皆さんの前向きな姿勢に、私は「喝！」を入れられた思いがしました。これからは、自分に甘えが出そうになったら、皆さんのことを思い出して頑張ろうと思っています。」<五十嵐慎之>

「生きていてよかった、、、」そんな言葉が聞こえました。この出会いがなければ…と考えると気持ちが引き締まる思いで一杯でした。帰りいつまでも手を振る14名を見送りながら、次に続く15人目のためにも、障害をマイナスとしてとらえるのではなく、一つの個性としてみるような世の中に、今生きている私たちが変えていかなければいけません。いいえ！今私たちが変えているという実感がします。この出会いは神さまが仕掛けてくださった贈り物です。大切に育てていきたいと思います。

特定非営利活動法人「カルミアネット」
<http://www.kalmia.jp> netsu@kalmia.jp
理事長 柁津順子